ケヤキ

にほんでのよびかた	欅(けやき)	ほかのなまえ	ツキ(槻)	17

なまえのゆらい

けやきのなまえはけやけき木」がゆらい。「けやけき」には、目立つ、ひときわすぐれるといういみがある。ケヤキは材(ざい)としてのゆうようせいとともに、そのうつくしさに人々のこころのよりどころとなり、むかしからたいせつにされてきた。

木のとくちょう

本州(ほんしゅう)、四国(しこく)、九州(きゅうしゅう)よくある落葉高木(オヒョウ)。はながさくのは4がつ。はっぱとどうじにはながさく。
樹皮(じゅひ)ははいいろでなめらか。皮目(かわめ)がおおく、ろうぼくになると鱗片状(うろこかたじょう)にはがれおちる。実(み)はちいさなそう果であきにじゅくす。

そのほか

こうえん、がいろじゅ(まちのどうろにうえられている木)、ぼうふう(かぜをふせぐ)、ぼうさいりんなどにつかわれる。

ケヤキ

和名	欅	17
別名	ツキ（槻）	

分類				
	科（APG分類）	ニレ科	属	ケヤキ属
	科（旧分類）		属	
	科（旧分類）		属	

名前の由来

・ケヤキの名は「けやけき木」が由来。「けやけき」には、目立つ、ひときわ優れるという意味があります。「ケヤキ」は材としての有用性とともに、その姿の美しさも人々の心のよりどころとなり、昔から尊ばれてきました。

樹木の特徴

・本州、四国、九州に分布しする落葉高木。雌雄同株で、花期は4月。葉の展開と同時に開花する。雄花は新枝の下部に数個ずつ集まってつく。雄花の花被は4～6裂する。雌花は新枝の上部の葉腋が
雌しべは花柱が2裂し、雄しべがないものと両性花となったものがある。

・樹皮は灰白色で滑らかで、小さく丸い皮目が多く、老木になると鱗片状に剝がれおちる。

・葉は互生し、葉身は卵形~狭卵形で質はやや薄く、縁に鋭い鋸歯がある。

・実は小さなそう果で秋に熟す。

用途・その他

・公園樹、街路樹、防風・防火林などに植栽される。

・樹形が美しく、各地に天然記念物に指定された巨木、名木がある。

・多くの自治体が「県の木」「市の木」といったシンボルにケヤキを指定している。
県の木：　宮城県、福島県、埼玉県
市の木：　秋田市、仙台市、鶴岡市、福島市、長岡市、鈴鹿市、久留米市など

・特別天然記念物　山形県東根の大ケヤキ　樹齢1500年　日本3大ケヤキ

作成年月日　2021，09，01